

令和元年度 学校経営基本構想

北海道檜山北高等学校

学校の現状

- 地元進学率:約70%
(中卒者の絶対数減少)
- 大きな環境の変化が少ない
(顔ぶれが大きく変わらない)
- 学習能力の幅が広い
(国公立大志望から民間就職志望まで)
- 家庭学習時間の不足(学習状況調査より)
- 特別支援が必要な生徒への対応

学校の課題

- 「目指す学校像」・「目指す生徒像」実現
- 地域から信頼され、必要とされる学校
- キャリア教育等における地域との連携
- 生徒・保護者の実態の変化への対応
- 保護者との緊密な意思疎通と連携
- 教職員の資質能力の向上
- 間口・職員減に対応した教育課程の編成

目指す学校像

○地域の担い手育成高校

目指す生徒像

○「志」を持ち、「生きる力」を身につけた生徒

本校への期待

- 生徒が地域で活動する姿
- 校種間での部活動の連続性(継続)
- 進路目標の達成
- 特色ある総合学科の維持

スローガン

「One-up」

人間力や進路等を始めとする「目標」を
高校入学時より、ひとつ上を目指す気持ちを持つ(育てる)

学校教育目標

- 1 知性と創造力を磨き、自ら実践する人間
- 2 人と自然を愛する、心豊かな人間
- 3 心身を鍛え、未来を拓く人間

地域社会になくてはならない魅力ある学校づくりと
更なる躍進を願い、教育目標に掲げた人間像を目指し、
「練心大望」の校訓の達成に努力する人材を育成する

学校経営方針

- ① 「地域の担い手育成高校」として地域の課題に積極的に関わり、課題解決に向けて具体的な提言、行動のできる生徒を育てる。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」など生徒が能動的に学ぶ時間を増やし、学習意欲を高め、知識・技能の定着、家庭学習習慣の定着を図り確かな学力を身に付けさせる授業力の向上に努める。
- ③ ハイパーQUIによる生徒個人と学級集団のアセスメントを行い、不登校、いじめ防止、学力向上、特別支援教育等に活用し、全教職員が同じ座標で生徒・学級集団を捉え組織、チームとして生徒支援を行う。
- ④ 一人一人の社会的自立に向けて、「志」を育み、そのために必要な「生きる力」を習得する方法、能力を生涯学習という視点でキャリア教育を中心に育成する。
- ⑤ 地域の信頼、期待に応える教育実践を地域の小・中学生とその保護者、地域、関係機関に紹介し、「地域の担い手育成高校」としての認識、理解の深化を図る。
- ⑥ 地域の小・中学生の状況を踏まえ教育内容、学校体制の検討、再構築に努める。
- ⑦ 働き方改革法案、北海道教育委員会のアクションプランの趣旨を踏まえた勤務体制の検討。
- ⑧ 法令、服務規律を遵守し教育公務員であるという自覚のもと地域の信頼にこたえる資質向上を図る。

学校運営

- 地域に信頼され必要とされる学校「信頼」
→生徒の地域行事等への参加、生徒の活動をPR
- キャリア教育等を通しての地域との連携「地域連携」
→地域資源・人材の活用、地域からの支援、地域への提言
- 組織運営「チーム北高」
→分掌主導での統一した指導体制、カリキュラム・マネジメントの推進
- 教職員の資質能力向上「教師力」→研修への参加、還元
- 地域異校種との連携「理解・協力」
→情報交換、教員交流、部活動連携

教育活動

- 学習指導「学び」
→学習習慣、基礎学力向上、新学習指導要領への対応
- 生徒指導「豊かな心」
→基本的生活習慣、規範意識、自律的態度
- キャリア・進路指導「社会人」
→社会的・職業的自立、進路希望の実現
- 健康・安全指導「安全・安心」
→心と体の健康、自他の尊重、命を大切にする態度、
よりよい学習環境と生活環境

令和元年度の重点課題

- 「北高スタンダード」の実践・定着
- 「主体的、対話的で深い学び」からの授業改善
- キャリア教育推進による生徒の進路実現
- 生徒の自主性・自立性の伸張
- シチズンシップ教育・主権者教育の推進
- 特別支援教育の質的向上
- 教育活動における校種を超えた連携の深化